



静岡県立大学1年
小島 恵美



静岡県立大学1年
杉山 愛美



静岡県立大学1年
山崎 蒼

社会全体でSDGsの達成を目指そう

会社のSDGs浸透活動

浸透させたい内容は、会社の仕事を正しく行うことがSDGsの実現に貢献するというものであり、それが会社の存在意義となる。

具体的なSDGsの取り組み（数ある中から3つ取り上げる）

①環境自動車の販売・エコドライブの啓蒙

静岡トヨタは、ハイブリッドカー「プリウス」を販売当初から環境自動車販売のパイオニアとして提供してきた。環境保全と住みやすい街づくりと取り組んでいる。

②安全装備搭載車・福祉車両の販売

安全運転サポートシステム搭載車の提案や福祉車両の提案を実施。静岡トヨタは、福祉車両の専門知識を備えたエキスパートである、ウェルキャブコンサルタントの在籍数が日本一。

③「静岡トヨタハイブリッド基金」

電動車の売り上げの一部を基金として積み立て、（公財）ふじのくに未来財団を通じ、環境保全、交通安全、防災活動や福祉を支援するもの。

取材してみたの印象の変化

静岡トヨタは、私たちの想像以上に、SDGsへ取り組み、現状をよりよくしようとしていることがよくわかった。取材する前は1つの企業があらゆる項目に対して、取り組むものだと感じていたが、取材を通して**さまざまな企業が協力してSDGsに取り組んでいくことが大事であると感じた**。また、SDGsに取り組むことが個人の働きがいにもつながるということにも気づくことができた。



企業の取り組みの“キーワード”

静岡トヨタは、“**SDGsの本質を理解させること**”に焦点を当てている。SDGsは企業単体だけではなく、社会全体で取り組むべきものである。その本質を理解させるべく、まずは社員に向けて講習会を実施して社員へSDGsを浸透させた。静岡トヨタは得意とする事業をさらに拡大して、社会全体での目標達成に貢献している。

取り組んだ学生の感想

小島：今までは学生の知識・視点でしかSDGsを見ることができなかったが、「人生の先輩方」のSDGsの見解を聞いて新たな視点を見つけることができた。

杉山：企業がどのようにSDGsに取り組んでいるか知ることができ、貴重な経験をすることができた。
山崎：どの企業も、事業から独立しているのではなく、事業の内部にSDGsを取り入れていることが理解できた。